

[成果情報名] イチゴ品種「ゆめのか」の春季における灰色かび病の発病特性

[要約] イチゴ品種「ゆめのか」の春季における灰色かび病は、「さちのか」よりも発病しやすく、特に、幼果、がく、果梗枝での発病割合が高い。貯蔵後の発病程度は両品種ともに同程度である。

[キーワード] イチゴ「ゆめのか」、灰色かび病、発病特性

[担当] 長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2016 年度

[背景・ねらい]

現在、イチゴ主力品種は「さちのか」から多収性の「ゆめのか」へ転換されつつある。

「ゆめのか」の病害発生特性は、炭そ病、輪斑病（2013 年度成果情報）や、うどんこ病、萎黄病（2014 年度成果情報）で明らかとなっているが、灰色かび病については不明である。

そこで、「ゆめのか」の春季における灰色かび病の発病特性を明らかにし、防除対策に活用する。

[成果の内容・特徴]

1. イチゴ品種「ゆめのか」は「さちのか」に比べ、春季における灰色かび病の発病量が多く、幼果、がく、果梗枝での発病割合が高い（図 1）。
2. 「ゆめのか」は「さちのか」に比べ、灰色かび病の発生が早く、その後の増加量も多い（図 2）。
3. 果実収穫後の貯蔵中に発生する灰色かび病の発病は、「ゆめのか」と「さちのか」で同等である（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は灰色かび病菌を春季に人工接種して得られた成果であり、頂花房、第 1 次腋花房での発病についても検討が必要である。
2. 「ゆめのか」は「さちのか」よりも発病しやすいため、効果的な殺菌剤散布に加え、ハウス換気など湿度低下対策を励行する。あわせて、伝染源となる発病果等はハウス外に速やかに持ち出す。

[具体的データ]

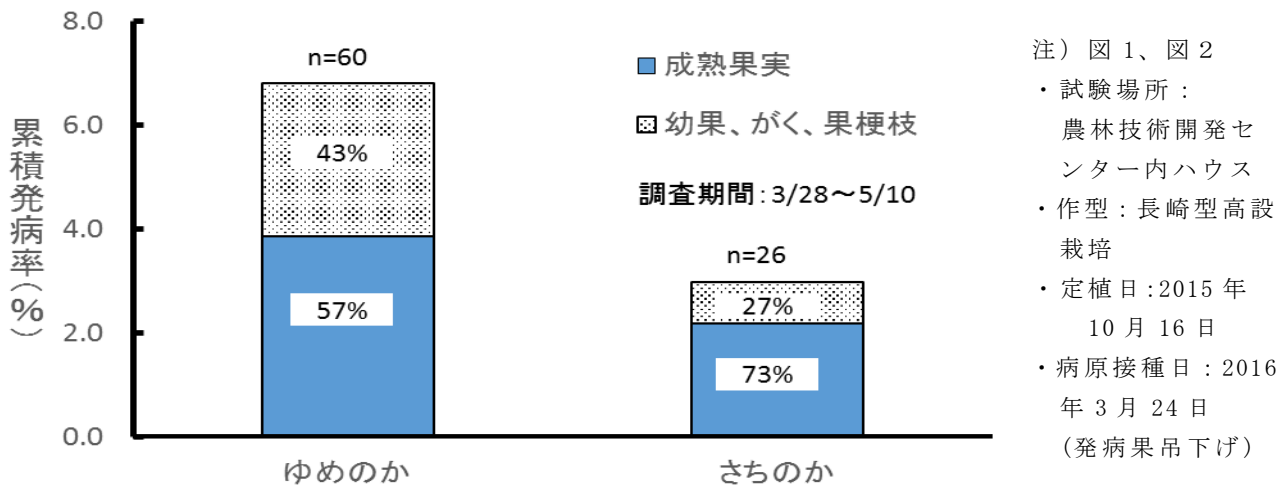


図1 灰色かび病の発病量の品種間差異

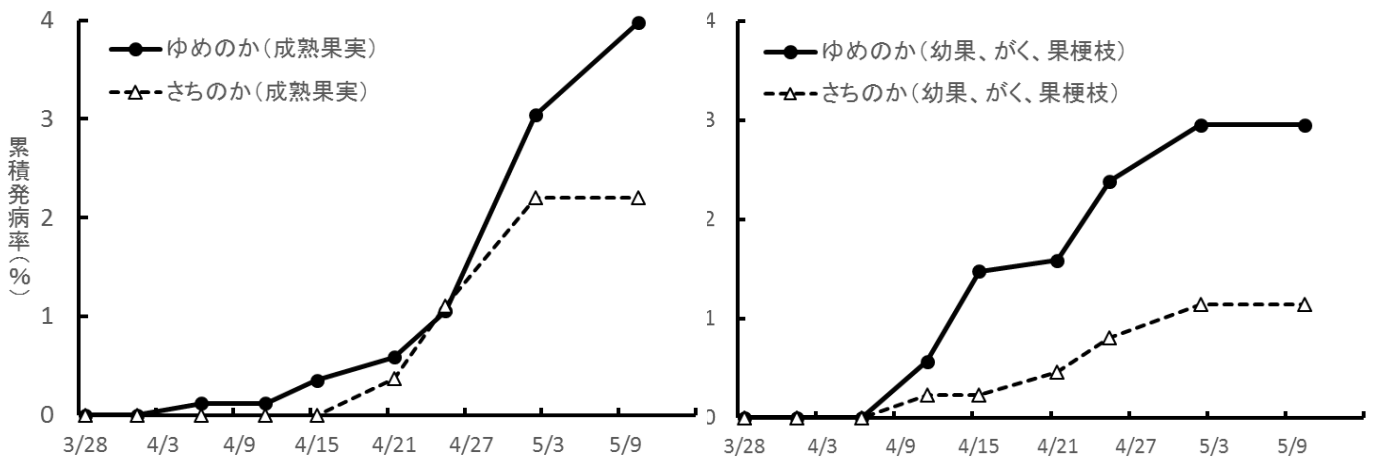


図2 灰色かび病の発病推移の品種間差異

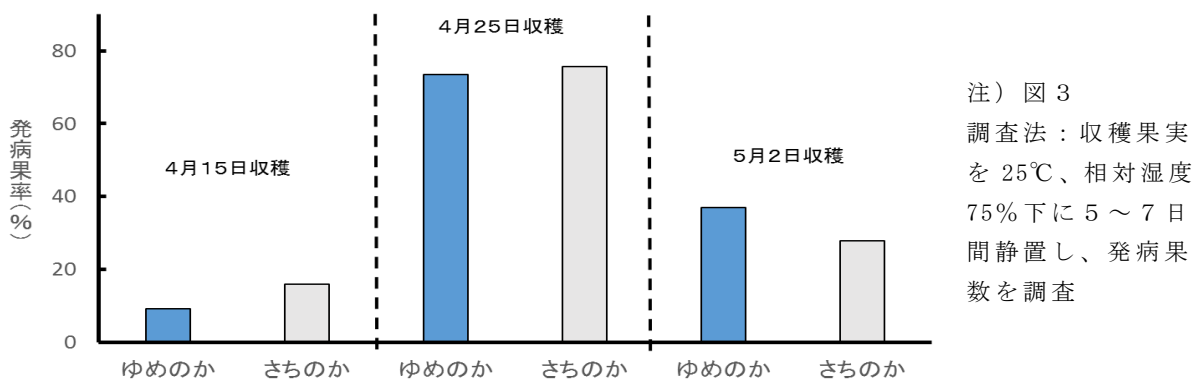


図3 果実貯蔵中の灰色かび病発病果率の品種間差異

[その他]

研究課題名：農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究

予算区分：県単

研究期間：2016年度（平成14年度～）

研究担当者：中村吉秀、江頭桃子、寺本健、難波信行（病害虫防除所）